

第九章 図書の資料及び図書館

第一節 図書館の利用状況

現状：図書館の現状は下表のとおり、図書等蔵書冊数 216,992 冊、定期刊行物 2,464 種を保有している。同規模大学と比較して、潤沢な設備費(資料費)予算(年間 4,600 万円)のもとで、その相当額を選書担当委員会により、教育・研究に重点を置き、かつ本学設置学科のコアとなる学問分野の教育・研究に不可欠な図書の収書と分野別にバランスの良い、蔵書構築を図る選書方針の下に収書している。参考書、一般教育図書、基本図書類の一部については、図書館司書による長期的整備方針に基づき、収書を行っている。

なお、書庫の収容・運用冊数を越えた図書を保有しているため、教員の選別により、倉庫に約 35,000 冊の図書等を預託している。預託図書に対する貸出し要望については原則として翌日出庫貸出に依拠している。

関東学園大学松平記念図書館の概要

項目	概要						備考
	図書の冊数		定期刊行物の種類(種類)		視聴覚資料の所蔵数(点数)	電子ジャーナルの種類(種類)	
図書・資料の収蔵数	図書の冊数	開架図書の冊数(内数)	内国書(和雑誌)	外国書(洋雑誌)			
		216,962 冊	25,000 冊	1,507 種	957 種	126 種	18 種
学生閲覧室等	学生閲覧室数 / 座席数		学生収容定員		収容定員に対する座席数の割合(%)		備考
	3 室 / 294 座席		2,440 名		120%		
過去 3 年間の図書の受入れ		11 年度	12 年度	13 年度	14 年度		備考
	国内図書	3,843 冊	4,114 冊	4,182 冊	4,613 冊		
	国外図書	1,467 冊	1,333 冊	1,349 冊	1,375 冊		
	合計	5,310 冊	5,447 冊	5,531 冊	5,988 冊		

H15.5.1 現在

図書館の利用状況の概況については次表のとおり。

近年においては利用対象者(学生、院生等及び教職員)の貸出冊数の全体平均は 2 ~ 3 冊、入館利用者は対象者 1 人あたり年間平均、20 ないし 24 回程度である。いずれも貸出総数、入館者総数においては減少している。在籍学生数の減少に伴う結果と見られる。ただし、1 人あたりの利用頻度、貸出冊数は若干上向の傾向にある。

貸出冊数等（注：館内利用とは閉架式図書館のためカウンターを通じ利用された数を示す）

年度	利用対象者数	貸出冊数	館内利用	貸出平均	全体平均
1997年	3,077	7,135		2.32	
1998年	2,950	5,522	3,045	1.87	2.90
1999年	2,707	5,287	1,941	1.95	2.67
2000年	2,672	5,674	3,824	2.12	3.55
2001年	2,280	5,057	2,580	2.22	3.35
2002年	1,961	5,953	1,738	3.04	3.92

年間入館利用者数

年度	開館日数	年間利用者人数	1ヶ月あたり利用者人数(人)	1日あたり利用者人数(人)	利用対象者数(人)	対象者平均利用回数
1998年	251	64,799	5,400	258	2,950	21.97
1999年	275	55,683	4,640	202	2,707	20.57
2000年	274	54,576	4,548	199	2,672	20.43
2001年	278	46,493	3,874	167	2,280	20.39
2002年	275	43,495	3,625	158	1,961	22.18

自己点検・評価：

- ・ 次に示すとおり、本学の設置目的、教育・研究に必要な学問分野の図書は、バランスよく収書されており、逐年、最新の図書類が収書されている。

蔵書の内容区分と増加図書の状況

区分		設置基準	現有冊数	
一般教育関係図書		5,300 + 4 × 4,000 = 21,300 冊以上	68,237 冊	
専門図書	経済学部 経済学・経営学関係図書	18,000 冊以上	77,005 冊	
	法学部 法律学関係図書	10,000 冊以上	40,164 冊	
学術雑誌	経済学部 経済学・経営学関係学術雑誌	50 種類 × 2 以上 半数以上は洋書	洋書	204 種
			和書	68 種
	法学部 法律学関係学術雑誌	50 種類以上 半数以上は洋書	洋書	64 種
			和書	62 種
増加図書	経済学部 経済学・経営学関係図書	100 冊/学科目・年以上 1600 冊以上（1 冊/学生 1 人以上）	99～02 年平均 1,099 冊 1,099 冊/46 科目 = 24 冊/年 学生定員/在籍数 = 1,620 人/1,209 人	
	法学部 法律学関係図書	100 冊/学科目・年以上 800 冊以上（1 冊/学生 1 人以上）	99～02 年平均 825 冊 825 冊/32 科目 = 26 冊 学生定員/在籍数 = 820 人/626 人	

注：和・洋雑誌については一般雑誌を除き継続的に購入される専門雑誌とした。平成 15 年 11 月 10 日現在

- ・担当する授業科目に関連する図書購入の要望については、年毎に教員 1 人当たり 3 万円を限度とし収書をし、資料の充実、授業支援に努めている。
- ・学生等要望（一般授業、ゼミ活動、就職活動、校外活動等の支援・助成）による資料収集、希望図書の購入リクエスト制度を設け窓口で受付けるなど、学生のニーズを直接反映する制度も設けている。
- ・教育、研究支援、図書館利用の促進を図るために各種ガイダンスを実施している。
館内案内、サービス案内から蔵書検索システム（OPAC）によるキーワード・主題検索方法、各種電子媒体利用方法など初級内容から上級内容まで幅広く、フレッシュマンセミナー、演習等のクラス単位、個人単位で、担当教員と連携を図りつつ実施している。
- ・リファレンス・サービスについては特に力点をおいて実施している。
- ・近年の図書離れを反映してか、特に学生の利用が低調傾向にある。

第二節 学術情報システムの整備活用状況

現状： 現在、1988 年に CALIS システムの導入、（以後 5 年毎に改修を実施）1998 年に学術情報センター（現国立情報学研究所）の目録所在情報サービス（NACSIS-CAT/ILL）の接続開始、また 1998 年 10 月に web.OPAC（関東学園蔵書検索システム）逐次刊行物管理システムを導入するなどし、同時に学内 LAN 等の整備を計り、短期大学図書館、学内研究室、開放端末室、個人 PC（e-Square 利用）間の接続により利用者へサービスの提供を行っている。また、スタンドアロン形式であるが CD-ROM・DVD-ROM による資料の提供も行っている。なお、本学においては各教員研究室に個人用パーソナルコンピュータ及びプリンターが設置され、本学の LAN を経由してインターネットを介し種々の情報の検索を行う環境が整っており、有料の検索サービスに対しては個々の教職員が自己責任で判断し、利用を行っている。

自己点検・評価：

- ・LAN を経由して学内からはインターネットに無料で接続する環境が整っており、有料の情報検索を希望する個人が当該サービスを受け、研究費支給額を限度として経費の支払をしている。
- ・教員や学生に対して専用のコンピュータ、プリンター等を設置し、情報基盤を整備し、ネット接続上の高度機能の便宜を提供しているため、教員や学生の教育・研究上、ネット利用を行うことができる体制が整備されている。

[長所及び問題点]

長所：

- ・ 本学の設置科目に必要な教育・研究用図書資料は、ほぼ完備されており、相当額の予算を持って経年、確実に増冊している。
- ・ 教育・研究に必要なコンピュータ機器、情報基盤、ネット接続（インターネットへの接続）など学内外との情報検索、コミュニケーションの便宜は提供されている。
- ・ 小規模図書館である点を有効に活用し、様々なサービス面において素早く対応することができる。

問題点：

- ・ 書庫狭隘化のため、全蔵書を大学内に収容できずその一部を学外の倉庫に別置している。教員や学生の利用頻度を考慮し別置すべき図書を定めているが、利用要請の都度、手間と経費を要している。
- ・ 本学は閉架式図書館のため、多くの図書等を利用者が書架から直接手に取って利用することができないシステムとなっている。一部開架図書（約 25,000 冊）として利用できる図書が限られており、学生の利用内容の低調である一因となっている。
- ・ 教員・学生の学術情報サービス利用内容の質に濃淡がある。
- ・ 書庫施設の一部に機能劣化が見られる。

[将来の改善・改革に向けた方策]

- ・ 図書館の書庫収容力の増加を含め、近い将来現在の書庫改修、大型集密書庫の設置、開架率の増加等の検討を開始する時期であろう。
- ・ 各教員の協力のもとに、資料を使って小論文にまとめる、図書館資料の調査、渉猟に基づき問題を考えさせるような課題の付与など、学生の図書館資料利用の拡大に繋がる施策を組織的かつ継続的に行う必要がある。